

The 3rd Race view

第3回のポイントレースは、Constanze が盤石の体制で、2勝目を獲得された。では、その雄姿を考えたのであるが、実は記者も久しぶりに乗艇を許されたので、撮れていなのだ。ご容赦願いたい。



5月21日、穏やかな天候の下、西宮沖では2つのレースが開催された。一つは我々のポイントレース、もう一つはお隣で KYC さんが IRC クラスのレースを行われていました。両レースを合わせると20艇近いヨットが集まりました。艇数が多いのは、見てもワクワクし、風情がありますね。さてこちらのレースは、ヒトヒトマルマル(11:00)に信号が鳴り響き、スタートが切られた。風位 210° に対して、スタートラインは $150^{\circ} - 330^{\circ}$ に設定され、完全にアウトター有利なスタートとなった。先ず、このアウトター1番の位置を確保したのがコンスタンツェ、続いて、真ん中辺りからバルトロメ、アマルフィが続く。アーリーバード、カリプソは集団を嫌い、スタート直後に右(西)海面へとタックを返し、左右に二分された艇団が形成されて上マークへとレグを伸ばしていくこととなった。



レースは、スタート後に風が西へ、即ち、右海面側に振れてしまい、右海面を選択した艇団には、「あっ」と驚くヘッダーとなり、逆に左海面を選択した艇団にはこれ以上はないリフトとなり、ほぼ第1上マークへのアプローチで勝負がついてしまったと言えよう。

コンスタンツェは、時々後ろを確認しながら、悠々とレグをこなして、着順・修正共に手堅く1位を手中にして30点を獲得したのである。

レース後のメルボルンハウスでは右海面選択への是非が論議され、その理由は次の2つであった。

1つ目は、上マークが、お隣の KYC さんの上マークと区別がつきにくかった。

2つ目は、風がスタート直後に西に振れて、右海面の艇団には、悪夢のヘッダーが入った。

だが記者の目からは、当時本部艇には上マークへの方位が示されており、KYC さんの上マークとは見間違えることの無いような気がしている。読者の皆様のご意見はどうだろう。

2つ目については、事前の情報収集不足と言えましょう。何故なら、記者ですらインターネットで風の情報を掴んでおり、この情報量の差がコンスタンツェの独走を許したものと言えようか。ルール上では、一般に公開されている情報の利用は許される。皆さんも準備されてはどうだろうか。情報提供先をお知りになりたい方は、記者までご照会ください。今日記者は比較的フリーな時間が得られたので、参加各艇の勇姿をお楽しみいただきましょう。



【特集】記者自身に偏見や拘りはないのだが、どうも記者の前を某艇がよく通られる。についてはここでミニ特集を組んでみましょう。限られたスペースだが、ご覧ください。



そう、Amalfi さんです。いつも楽しく、真剣にレースを楽しんでおられます。講習会にも積極的に参加されます。必ずや、その成果はレースで表れることでしょう。期待しています。



では、もう一つレースでのエピソードを披露しましょう。先ず、次の写真をご覧ください。



上からアーリーバードさんが突っ込み、下からはコンスタンツェが受ける。どちらも譲らず、なかなか際どい、1艇幅以内での交差でした。権利艇としてはコンスタンツェですが、 unnecessaryアクションはなく、両艇とも違反はありませんでした。立派ですね。

【編集後記】

久しぶりの同乗レポートでしたが、乗艇した艇が艇団から突出してしまったので、難しいレポートとなり、残尿感の残る記事となりました。では、ここで「北港への新たな白鳥の飛来」をお届けします。記者は先にアーリー・バード艇を北港の白鳥と名付けていた。だが、次の写真をご覧ください。



アーリーさんのお隣に、スターンが真っ白の大白鳥が飛来していた。ダブルラットであるから、そう Bartolome 艇である。どこかの保険のコマーシャルのように、白鳥の隣には黒鳥が居ないところが、北港であろうか。保険金を請求することのないヨットライフをおくられることを願いつつ、北港の新たな景色として紹介しておこう。黒鳥とは、正に右の艇を指すものと言えましょう。

後記2、「たけなわⅢ」の始動



クラブの救助艇「たけなわ」が新しくなりました。26フィートと小振りになりました。ボディーは真っ新きんではありませんが、200馬力の船外機はピカピカの一年生、意外にも静かな淑女です。静かな佇まいの中にも高い運動性を秘めており、今日も初仕事としてレースの運営でキビキビと走り回ってくれました。会員の皆様、大切に、可愛がってあげてください。

今回の記事は、これまでです。次回は、6月の予定です。時間と体力があればお届けしたいです。還暦を迎え、少し弱さになってきた情報部員、記者Uでした。

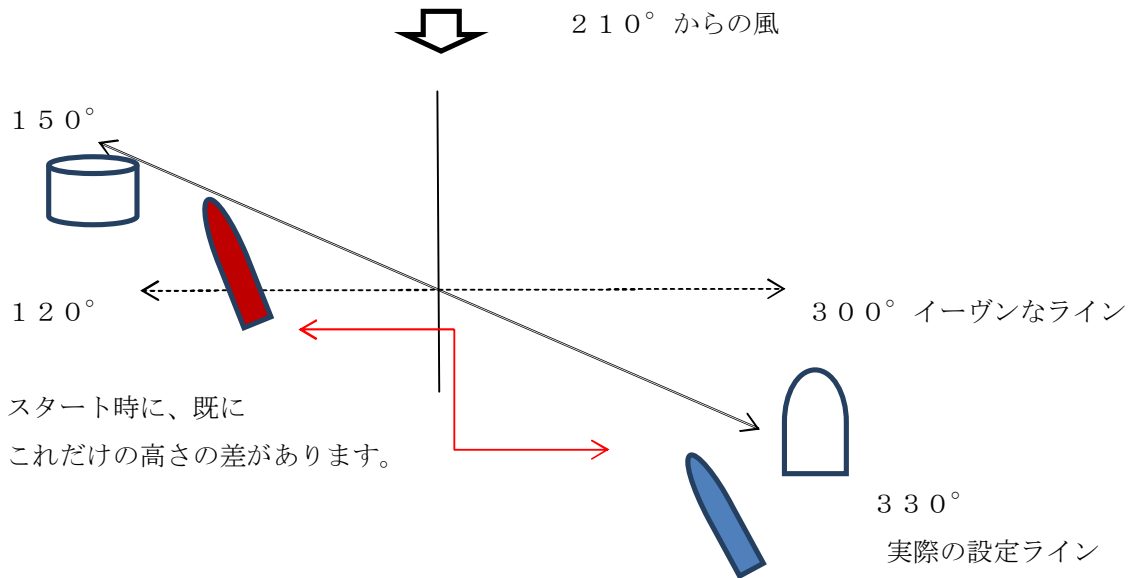
(ご案内) 次ページにおまけを付けました。お時間があれば研究ください。

【ワンポイント・レッスン】

「スタートラインにおける有利・不利」

今日のスタートラインを題材にして、有利・不利を考えてみましょう。

設定	風向	210°
	スタートライン	150° → 330° に設定



第1上マークが正しく風上に設定されておれば、スタートラインの設定は、この様な差を生みます。

但し、上の例であっても、必ずしもアウター側が有利とは限りません。

第1列を確保できれば good ですが、艇が集中して、貴方の艇が2列目以下になってしまえば、乱れた風を受けることとなります。

こんな状況に陥るのであれば、空いていて、フレッシュな風を受ける本部艇側が良いでしょう。

又、先の右海面が有利に見えるのであれば、本部艇側から出て、タックして右海面を目指すことも作戦としてはあり得ます。戦略を考えて、4分前から位置取り始めましょう。